

令和 7 年度宮代町社会福祉協議会 事業報告

I 総括的事項

令和 7 年度は、能登半島地震から 1 年を経て復興事業が本格化したほか、阪神・淡路大震災から 30 年という節目の年であり、防災意識を再確認する年となりました。また、国際博覧会の開催、デジタル化の進展など未来に向けた変革が進んだ年でもありました。

また日本の高齢化率が過去最高に達し、経済的・健康的課題が複合化し、これまでの対策では直ちに解決できない事案も増えてきました。中でも高齢者の就業支援や生活支援など人口構造や生活スタイルの変化へ対応した取り組みがより一層重要度を増してきました。

こうした中、宮代町社会福祉協議会では、「支え合い 誰もが安心して暮らせる 福祉のまちづくり」を基本理念とする「第 2 期宮代町地域福祉活動計画」に沿って様々な事業への取り組みを進めた年となりました。

特に重要事業である「みやしろワンチームプロジェクト」は、活動計画全体を貫く考え方として「地域のあらゆる人が、自分のできる時に、できることを行う」ことを様々な活動の基本としました。この取り組みを進めることにより、地域の困りごとを小さくし、人や活動をつなげ、地域全体で福祉への関心を高めていくことを目指しました。令和 7 年度はプロジェクトの活動テーマとして「認知症」を取り上げ、複数の事業において考え方を生かした取り組みを展開しました。

さらに令和 7 年度は、宮代町から受託した地域包括支援センター事業として南高齢者相談センターを開設し、本格的に業務を開始することができました。

高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう相談者に寄り添い、介護予防、総合相談、権利擁護を含む包括的かつ継続的なケアマネジメントを宮代町の南半分を対象圏域として行いました。

相談センターの業務は多岐にわたりますが、主な取り組みである総合相談支援では、1 年間にのべ 4,406 件の相談をいただき、251 人に対し、のべ 2,187 件のケアプラン作成に関わることができました。この他、介護予防を目的とした「すてっぷあっぷ体操教室」を 16 回開催し、のべ 129 人に参加いただきました。また、「認知症について考えるカフェ」を 11 回開催し、のべ 99 人に参加いただきました。認知症の方やそのご家族の居場所としていただくほか、安心して暮らせる地域づくりについて考える機会にもなりました。

そして児童福祉においては、子どもたちの孤立を防ぎ安心して過ごせる居場所づくりが地域社会の課題となっています。当社協では子ども食堂事業として、ゆうやけひろば実行委員会と共に、コミュニティセンター進修館で毎月 2 回計 24 回の子ども食堂を開催しました。参加者はのべ 1,632 人に上り、食事の提供と共に安心して過ごせる居場所づくりに努めました。この取り組みは町内の自治会や地域サロンにも広がりを見せ、フードパントリー事業とも連携し、実施団体へ食材提供等の支援を行うことができました。

なお、この他の個別事業につきましては、次頁以降に掲載させていただきました。当社協では、今後も複雑多様化する福祉課題に対し包括的な支援を提供すると共に、福祉交流拠点の機能を発揮し、地域の皆様を支える福祉活動に取り組んでまいります。

-目 次-

1	法人運営	P 1
2	地域福祉の推進	
	（１）地域福祉活動の推進	P 5
	（２）福祉交流・活動拠点の推進	P 7
	（３）福祉のまちづくり啓発活動の推進	P 8
3	高齢者・障がい者・児童福祉の推進	
	（１）高齢者福祉の推進	P 1 1
	（２）障がい者福祉の推進	P 1 4
	（３）児童福祉の推進	P 1 5
4	ボランティア活動の推進（ボランティアセンターの運営）	P 1 7
5	相談支援・権利擁護	
	（１）日常生活自立支援	P 1 9
	（２）生活困窮者支援	P 1 9
	（３）福祉資金貸付	P 2 1
6	在宅福祉サービス	P 2 2
7	介護・障がい福祉サービス	
	（１）居宅介護事業	P 2 3
	（２）訪問介護事業	P 2 3
	（３）地域包括支援センター事業	P 2 5
	（４）障がい福祉サービス事業	P 2 7
	（５）相談支援事業	P 2 9
8	その他	
	（１）共同募金会宮代支会	P 3 0
	（２）日本赤十字宮代町分区	P 3 1

1 法人運営

(1) 理事会・評議員会・監査会

計 153,980 円 (R6年度 196,984 円)

定款第13条及び第21条、第22条に基づき、理事会・評議員会・監査会を開催しました。

■理事会の開催

開催年月日	議 事 内 容	出 席 者	結 果
第1回 令和7・5・27	議案第1号 令和6年度事業報告について 議案第2号 令和6年度収支決算について 議案第3号 評議員会の招集について 議案第4号 評議員候補者の選任及び評議員選任 解任委員会の招集について 議案第5号 役員（理事・監事）候補者の選任 について	理事総数 11 名中 7 名出席 監事総数 2 名中 1 名出席	原案可決 原案可決 原案可決 選任可決 選任可決
第2回 令和7・6・19	議案第1号 会長及び副会長の選定について 議案第2号 常務理事の選定について 議案第3号 評議員選任・解任委員会委員の選定 について 議案第4号 会員規程について	理事総数 11 名 10 名出席	選定可決 選定可決 選定可決 原案可決
第3回 書面決議 令和7・12・18	議案第1号 理事候補者の選任について 議案第2号 評議員会の招集について 議案第3号 評議員候補者の選任及び評議員選任 解任委員会の招集について 議案第4号 第三者委員の選任について	理事総数 11 名 監事総数 2 名	選任可決 原案可決 選任可決 選任可決
第4回 書面決議 令和8・2・18	議案第1号 理事候補者の選任について 議案第2号 評議員会の招集について	理事総数 11 名 監事総数 2 名	選任可決 原案可決
第5回 令和8・3・27	議案第1号 令和8年度事業計画について 議案第2号 令和8年度資金収支予算について 議案第3号 職員給与規程一部改正について 議案第4号 育児・介護休業規程の全部改正について 議案第5号 役員等賠償責任保険の契約について	理事総数 11 名 10 名 出席 監事総数 2 名中 1 名出席	原案可決 原案可決 原案可決 原案可決 原案可決

■評議員会の開催

開催年月日	議 事 内 容	出 席 者	結 果
第1回 令和7・6・19	議案第1号 令和6年度事業報告について 議案第2号 令和6年度収支決算について 議案第3号 役員（理事・監事）候補者の選任 について	評議員総数 25 名中 15 名出席 監事総数 2 名中 1 名出席	原案可決 原案可決 選任可決
第2回 書面決議 令和7・12・9	議案第1号 役員（理事）の選任について	評議員総数 25 名	選任可決
第3回 書面決議 令和8・2・20	議案第1号 役員（理事）の選任について	評議員総数 25 名	選任可決
第4回 令和8・3・27	議案第1号 令和8年度事業計画について 議案第2号 令和8年度資金収支予算について	評議員総数 25 名中 17 名出席 監事総数 2 名中 0 名出席	原案可決 原案可決

■監査会の開催

実施年月日	監 査 内 容	出 席 者	結 果
令和 7・5・16	令和 6 年度事業監査及び会計監査の執行	監事総数 2 名中 2 名 出席	承 認

(2) 社協会員募集

会員規程第 7 条に基づき、4 月から 7 月を募集期間として、区長・自治会、町内事業所等に依頼し、会員募集を実施しました。

会費の使い道をまとめた資料を、令和 7 年度の募集用に作り直し、すてっぷ宮代活動チームにも配布しました。

■会員数等

会員の種類	R 7 年度		R6 年度		増 減	
	会員数	会費額	会員数	会費額	会員数	会費額
一般会員 (500 円)	6,032 口	3,016,000 円	6,241 口	3,120,500 円	-209 口	-104,500 円
団体会員 (1,000 円)	26 口	26,000 円	31 口	31,000 円	-5 口	-5,000 円
特別会員 (5,000 円)	85 口	425,000 円	83 口	415,000 円	+2 口	+10,000 円
特別会員 (法人会員)	31 口	155,000 円	32 口	160,000 円	-1 口	-5,000 円
合 計	6,174 口	3,622,000 円	6,387 口	3,726,500 円	-213 口	-104,500 円

(3) 組織体制の強化及び職員の資質向上

新たな地域福祉課題の解決に向けた事業等を着実に進めていくため、「一般寄付」及び「指定寄付」により、事業に必要な資金の確保に努めました。

また、職員の専門性や課題解決能力等の向上に向けて、埼玉県や県社会福祉協議会が主催する研修等に参加するとともに、組織風土の改善や法令順守を推進するため、内部研修を実施し、職員の資質向上に努めました。

■指定寄付の状況

指定寄付	内 容	寄付額
高齢者の暮らしを支える事業	ひとり暮らし高齢者の生活を支える「ふれあい生活支援事業（笑顔のチケット）」に活用	0
障がいのある人の働くを応援する事業	障がいのある方の就労を支える福祉の店「ぶどうの樹」の運営に活用	20,000
子ども笑顔架け橋事業	子どもの居場所づくりを目的とした子ども食堂「夕やけひろば」の運営に活用	105,525
町内の福祉活動事業所支援事業	町内の福祉を支える事業所等支援として「福祉活動事業所等支援事業」に活用	0
ほのぼの基金	在宅介護の充実を図る事業に活用	0
ひまわりの家基金	福祉作業所「ひまわりの家」の運営に活用	100,000
合 計		225,525
(参) 一般寄付		1,388,235

（４）各種委員会の開催

計 4,841 円（R6年度 3,043 円）

社協内に、感染防止委員会、虐待防止委員会、事業継続計画（BCP）策定委員会を設置し、各部署が情報を共有しながら連携して組織の課題解決に向けた検討を進めました。

■各種委員会

各委員会等	内容
感染防止委員会	感染防止に関する研修会（座学・実技）の検討実施
虐待防止委員会	虐待防止に関する研修会の検討実施
業務継続計画（BCP）委員会	業務継続計画（BCP）に関する研修会の検討実施

（５）広報・ホームページ

計 523,127 円（R6年度 523,776 円）

社協活動の周知徹底と福祉サービスの情報提供を図るため、広報紙「社協宮代」、「ひまわりだより」を発行しました。掲載にあたっては、各号でテーマを定め、テーマに合った特集ページを設け、地域福祉の現状や課題について、発信しました。

広報紙では伝えきれない情報は、Facebook や公式LINE 等で積極的に投稿し、社協事業等の情報を周知しました。

また、社協の登録団体（すてっぷ宮代活動チーム）の活動を中心とした、どなたでも参加できる事業をまとめた「すてっぷ宮代カレンダー」の発行、チラシ・ポスターの配架などにより、団体等の活動を PR しました。

＊社協公式 LINE 登録者数 196 人（R8 年 3 月 31 日時点）

■社協宮代

発行物	回数等
社協宮代	年 3 回（第 105 号・第 106 号・第 107 号）
「ひまわりだより」（宮代ひまわりの家）	年 1 回（第 40 号）

（６）福祉交流館の機能強化

福祉交流館すてっぷ宮代が、地域福祉を支える人や活動をつなげる場所として、地域福祉の基盤となる諸団体等の活動拠点としての役割を果たしていくため、休日開所（第 1 土曜日、第 3 日曜日）を継続実施しました。

また、すてっぷ宮代内の交流スペースを活用し、スマホ・PC なんでも相談会、チャリティーバザー、季節にちなんだ工作コーナーや、アートスペースコーナーでの展示会等を実施し、多くの人が集い、交流しました。

■休日開所の利用状況

利用団体数	利用人数	利用時間
延べ 33 団体	延べ 340 名	延べ 120 時間

■交流スペースの活用

【工作コーナー】

月	内 容
4～5 月	紙コップ鯉のぼり制作
6～7 月	七夕 短冊制作&本物の竹に飾る
8 月	オリジナル昆虫制作
9 月	折紙キノコ制作
10 月	赤い羽根塗り絵コーナー
11～12 月	クリスマスオーナメント制作&クリスマスツリーに飾る
1～3 月	宮ピョン缶バッジデザイン大会

【アートスペース】

＊敬称略

展示期間	作者	タイトル・展示内容
4/25～5/15	峰村峻介	『宮代町とはナニモノか～宮代太郎の自分探し～』（模造紙・絵画・制作プロセスの展示）
12/4～3/4	住谷祐一郎	『彼岸花』（宮代町の風景写真の展示）



12 月工作で飾られたクリスマスツリー



工作コーナーで工作する子ども



アートスペース展示 住谷祐一郎 氏

2 地域福祉の推進

(1) 地域福祉活動の推進

地域福祉活動の推進を目的とした第2期宮代町地域福祉活動計画では、地域のあらゆる人が普段の生活の中でできる小さなやさしさを持ち寄る「みやしろワンチームプロジェクト（M1）」を進めています。福祉を特別なものではなく、日常の中の出来事として感じてもらうことが、この取り組みの第一歩です。令和7年度は認知症をテーマに認知症の対応の仕方を協議体のメンバーにご協力をいただき動画を作成し、さらに地域のあらゆる方に一歩を踏み出していただくために認知症に関係している団体にも動画撮影に協力をいただきました。

また、多様な組織や関係者との地域福祉活動のネットワークを構築するため、住民主体の見守り活動を広げていく「みまもりの「わ」事業」の拡充に努めました。さらに、地区・自治会及び地域交流サロン、福祉活動推進事業所等の活動も支援しました。

① みまもりの「わ」事業

計 6,930 円 (R6年度 158,895 円)

地域で誰もが安心した生活が送れるよう、さりげない見守りを行う見守りサポーター（個人登録：みまもりさん、団体登録：みまもり団員、事業所登録：みまもり協力店）を拡充し、支援を必要としている方が地域で孤立しない見守り体制を推進しました。

また、見守りサポーターに対し、認知症サポーター養成講座を開催し、見守りさんのレベルアップを図るとともに、みまもり活動を広く推進してくれるスーパーみまもりさんの登録も併せて行いました。

さらには、多くの地域で見守り活動を広げていくため自治会にモデル地区を作り、見守り活動の推進に努めました。

■見守りサポーター登録確保に向けた取組み

項 目	実施状況
みまもり団員説明会	4 団体

■見守りサポーター登録状況 <令和8年3月末現在>

種 類	登録者数等
みまもりさん（個人登録）	154 名
みまもり団員（団体登録）	37 団体（827 人）
みまもり協力店（事業者や店舗登録）	40 店舗

■認知症サポーター養成講座を開催

*2月16日開催 16名参加 スーパーみまもりさん8名登録

■みまもりさんモデル地区

*姫宮北団地 みまもりさん説明会 3月1日

■見守りサポーターによる情報提供 4件

② 地区・自治会支援事業

計 99,576 円 (R6 年度 66,410 円)

地区・自治会に対し、プロジェクターやスピーカー・マイク等の機材、レクレーショングッズやテント等の備品の無料貸出しを行うとともに、一芸ボランティア、学生ボランティアの調整及び派遣を実施し、地区・自治会活動を支援しました。

また、社協に対する理解を広げるため、社協事業やすてっぷ宮代の紹介の他、貸出備品の展示・体験、喫茶コーナーを設けた「区長・自治会長さま感謝デー」を開催しました。

■地区・自治会への備品・機材・レクグッズの貸出 15 件・11 地区

■地区・自治会への地域応援学生ボランティアの派遣状況

依頼内容	申込人数
10 月 26 日(日) 9～17 時 宮代台オータムフェスタ	5 名
11 月 9 日(日)9 時～13 時半 道佛 1 区炊き出し訓練	4 名
1 月 18 日(日)9 時～14 時 道佛 1 区もちつき会	2 名

※地域応援学生ボランティアの詳細は、ボランティアの項目に記載。

■区長・自治会さま感謝デー

日程	内容	参加者数等
6/7(土)9～16 時	社協事業の紹介、地区等への貸出し備品やレクレーショングッズの展示及び体験、学生ボランティアや一芸ボランティア派遣相談等	14 地区 21 名

③ 福祉活動推進事業所等支援事業

計 106,517 円 (R6 年度 115,062 円)

宮代町内で福祉活動を推進している高齢・障がい・保育分野の 6 事業所（すてっぷ宮代活動チームに登録していただいている社会福祉事業所）に対し、消耗品（A4 コピー用紙、トイレットペーパー）を配布するとともに、当社協が運営する「宮代ひまわりの家」も交えて交流会を開催し、分野を超えて、現状や課題等、様々な情報交換を行いました。

また、令和 7 年度も、特別養護老人ホームみどりの森で開催された「みつなみ会秋祭り（10 月 6 日（日）」に参加し、障がい福祉サービス事業所の自主製品の販売（貝工芸、あかりせんべい、さをり製品）を行いました。

■福祉活動推進事業所交流会

実施日	参加団体	実施内容
R7.8.26（火）	障がい 1 団体、高齢 3 団体、保育 1 団体	情報交換及び消耗品の配布、令和 7 年度の活動の検討
R7.10.6（日）	障がい福祉 3 団体、高齢福祉 2 団体	みつなみ秋祭りでの自主製品販売
R8.2.17（火）	障がい福祉 3 団体、高齢福祉 3 団体、保育 1 団体	情報交換及び消耗物品の配布、令和 7 年度の振り返り、次年度の活動の検討

（２）福祉交流・活動拠点の推進

地域共生社会の実現に向けて、福祉活動団体等と連携する仕組みづくり（プラットホーム）を推進するため、西原自然の森拠点事業により、人が集い、交流する機会を提供するとともに、社協と協働で地域福祉活動を実施するすてっぷ宮代活動チーム登録団体をはじめ、多様な組織や関係者が相互に連携する機会を提供し、地域福祉活動のネットワーク化に向けて取り組みました。

① 西原自然の森拠点事業

福祉交流館すてっぷ宮代が地域福祉の拠点としての機能を高めていけるよう、すてっぷ宮代に多くの人が集い、その存在を周知することを目的に、すてっぷ宮代を会場とした様々なイベントを開催しました。

また、すてっぷ宮代活動チームの活動紹介・交流を目的とした「M1まつり」を、「西原自然の森フェスタ」と同時開催し、多くの人が集い、関わり、多様な活動にふれる機会となりました。

■多目的室はくもくれん・しいがし・会議室の貸出し

	使用団体数	使用人数	使用時間
R 7	延べ 625 団体	延べ 6, 273 名	延べ 1, 802 時間
(参考) R 6	延べ 677 団体	延べ 6, 883 名	延べ 1, 993 時間

■西原自然の森フェスタ & M1まつり 計 344, 993 円 (R6年度 229, 557 円)

項 目	内 容
開催日時	11 月 16 日(日)10～14 時
協力団体等	すてっぷ宮代活動チーム 27 団体 約 200 名
社協の実施内容等	すてっぷ宮代活動チームに所属するボランティア団体や活動団体、法人等が、それぞれの活動を紹介・体験できるブースを出展しました。
参加者	延べ約 1, 000 名 (西原自然の森フェスタ含む)

■ユニバーサル福祉カルタボッチャ大会 (P. 13)

■＼集まれ子どもたち／宮代町こどもの居場所で遊ぼう (P. 15)

■スマホ・PC なんでも相談会 (P. 17)

②すてっぷ宮代活動チーム事業 計 0 円 (R6年度 51, 763 円)

地域福祉活動を推進するため、社協と協働で地域福祉活動を実施する「すてっぷ宮代活動チーム」の登録団体を増やすとともに、各登録団体が交流できるよう「西原自然の森フェスタ & M1まつり全体打合せ」等を実施しました。

■すてっぷ宮代活動チーム登録団体 112 団体 (令和 8 年 3 月末)

■西原自然の森フェスタ & M1まつり全体打合せ

実施日	参加者数	内容
10 月 10 日(金)	26 団体 (37 名)	西原自然の森フェスタ & M1まつりの趣旨・概要説明。各団体のブース内容紹介・交流。

（３）福祉のまちづくり啓発活動

福祉のまちづくり啓発活動として、関係機関と連携し、福祉教育の充実及び認知症を支えるまちづくり事業に取り組み、地域福祉に関心と理解を深めました。

① 社会福祉協力校指定事業

計 450,000 円 (R6年度 450,000 円)

児童生徒に対し、福祉への理解と関心を高め、ボランティアや社会連携の精神を養うとともに、児童生徒をとおして家庭や地域社会へ福祉の啓発を図ることを目的に、福祉活動を実施する町内小・中学校・高校、特別支援学校の計 9 校を社会福祉協力校として指定し、1 校当り 5 万円を限度とする補助金を交付しました。

■福祉指定校 小中学校全校及び県立宮代高校、県立宮代特別支援学校

学 校 名	福 祉 協 力 校 実 施 事 業 内 容
百 間 小	・交流事業－ボランティア、地域の方々へ御礼のタオル配布 ・ふれあい体験事業－昔の遊び、田植え、福祉体験等ゲストティーチャー茶菓子代 ・環境整備事業－校内花壇や教室内（花苗、球根、土） ・募金、回収活動－牛乳パック等の回収、ユニセフ、赤い羽根、緑の羽根募金 手足を不自由な子どもを育てる運動
笠 原 小	・生命の尊重、福祉意識の啓発活動（一人一鉢栽培活動、学校ファームの充実）
東 小	・「花いっぱい運動」の推進（低学年の生活科授業で植物栽培、地域の方々も利用する学校敷地内「花の道」脇の花壇の充実、一人一鉢栽培活動）
須 賀 小	・「花いっぱい運動」の推進－花苗、肥料等 ・「福祉教育」の充実－感謝集会の開催、手作り贈呈品
須 賀 中	・校内緑化・環境整備－整備用機材（草刈り機、首長ねじれ鎌、立ち鎌）購入
百 間 中	・百中緑化プロジェクト X(花壇づくり、緑化運動) ・福祉体験学習－車椅子、白杖、手話体験等（各学年） ・学校ファーム－栽培の土壌づくり
前 原 中	・地域団体との交流（体育祭、音楽祭、PTA バザー等の行事） ・宮代特別支援学校との交流会 ・JRC に参加し、青少年赤十字の精神を学ぶ ・音楽部が町の産業祭やおひな祭り、桜市で琴を演奏し、交流
宮 代 高 校	・宮代特別支援学校分校との交流会
宮代特支学校	・学校ボランティアの募集に関する事業－新規ボランティアの受け入れ ・ボランティア講座－2 回実施。 ・ボランティア活動の充実に関する事業－活動時消耗品、感染対策用品

②福祉教育への支援

各小中学校に対し、ボランティア団体等による体験学習の調整や、福祉体験機器の貸出しを行い、福祉教育を推進するための支援を行いました。

■ボランティア団体等とともに行った体験学習（機器貸出のみは除く）

体験学習名	手話体験	点字体験	ガイドヘルプ体験	車椅子体験	福祉の入口
(協力団体)	宮代手話の会	点字サークル 宮代	ガイドヘルプ 「ユーアイ宮代」	みやしろ団世会 ・荒木親子	(福)じりつ
東小学校	○	○	○	○	—
笠原小学校	○	○	○	○	○
須賀小学校	○	○	○	○	—
百間小学校	—	—	○	○	—
百間中学校(1年生)	○	—	○	—	—
百間中学校(2年生)	—	—	—	○	—
百間中学校(3年生)	○	—	—	—	—

■福祉体験機器の貸出し

福祉用具	保有数	貸出数量	(参考)R6
高齢者擬似体験セット	10 個	0 個	23 個
車いす	36 台	26 台	19 台
白杖	10 本	50 本	40 本
アイマスク	100 枚	307 枚	199 枚
点字器	30 個	84 個	54 個



ボランティア団体による体験学習

③ 認知症を支えるまちづくり事業

計 274,876 円 (R6年度 274,754 円)

今後の共生社会や支え合いの地域社会を考えていく中で、高齢者だけでなく現役世代や学生等へのアプローチを同時に行っていく必要があります、日本工業大学、宮代町、宮代町立図書館と多面的な分野で連携ができるよう月に1回程度ミーティングを行いました。

令和7年度は、昨年同様『認知症にフレンドリーな社会を目指した合同展』のほか、宮代で共に暮らす展示会・講演会を開催しました。講演会では、岩手県から紺野医師をお招きし、認知症の方でも安心して買い物が楽しめる「スローショッピング」について講演をいただき、宮代町でも「スローショッピング」をカスミと東武ストアで試験的に実施をしました。

■心のふれあい絵手紙

項 目	内 容
参加者	町内小学校児童 273 名
展示等	町立図書館で行われた合同展 (『認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.7』) にて展示。参加記念品として、町のオリジナル缶バッジ進呈

■宮代で共に暮らす展示会・講演会

項 目	内 容
内 容	講演「スローショッピング」 講師 紺野敏明 氏 ※講演会前に、展示をしていたMカフェ、Tully' s c o f f e e、きらりびとみやしろより認知症に対する取組みを紹介してもらいました。
主 催	宮代町社会福祉協議会、宮代町健康介護課、日本工業大学、宮代町立図書館
日 時	9 月 21 日 (日) 13:00~16:30
会 場	コミュニティセンター進修館大ホール
参加者	90 名

④ 宮代みんなのふくしカルタ事業

計 0 円 (R6年度 68,618)

すてっぷ宮代活動チーム等の協力のもと作成した「宮代みんなのふくしカルタ」の普及を通して、福祉に関する理解を広めるため、カルタ・カルタボッチャの貸し出しや、ユニバーサル大会(P.14)の開催等を行いました。また、福祉課協力のもと、製作したふくしカルタ缶バッジを、「ところをつなぐ展示会」等各種イベントの他、すてっぷ宮代や、福祉の店 喫茶 ぶどうの樹でも販売しました。

*福祉カルタ・カルタボッチャの貸出し実績・・・25 件 (2026 年 3 月 31 日時点)



宮代で共に暮らす展示会・講演会



認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展

3 高齢者・障がい者・児童福祉の推進

(1) 高齢者福祉の推進

ひとり暮らし高齢者の安否確認活動や生活を支える事業をはじめ、縁じよい事業にかかる交流会や新たな情報発信（YouTube 動画）により、高齢者のやりがい、生きがいをづくりをととした社会参加の促進に取り組みました。

① ふれあい友の会事業

計 344,650 円 (R6年度 303,218 円)

ふれあい友の会登録者（社協に登録された 65 歳以上のひとり暮らしの方）に対し、見守り活動の一環として、下記の時期に慰問品配布をととした安否確認を実施しました。

■ふれあい友の会登録者数 312 名（令和 7 年度末）（令和 6 年度 315 名）

■慰問品配布

実施日	配布品	協力団体
R7 年 7 月中旬～8 月中旬	ご当地商品券 「ありがとう」	民生委員 児童委員協議会

② ふれあい生活支援事業（笑顔のチケット）

計 260,286 円 (R6年度 216,452 円)

ひとり暮らし高齢者でふれあい友の会に登録されている方が、自立した生活の継続及び充実した生活を送っていただく取組の一環として、町内の生活支援提供団体による生活支援サービス（日常生活上のお手伝いや趣味のお手伝い）を利用できる「笑顔のチケット」を配布しました。「笑顔のチケット」を配布するにあたり、笑顔のチケット連絡会を行い、実施に向けた協議を行うほか、各団体に共通する担い手不足等の課題を共有しました。担い手不足の課題については、宮代町健康介護課と連携して、担い手確保に向けた取り組みを実施しました。

■令和 7 年度笑顔のチケット利用結果（利用期間令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）昨年度実績 107 件

事業者名	利用件数	内容（例）
認定 NPO 法人 きらりびとみやしろ	27 件	・移送サービス・壁紙張り替え・窓ふき・庭の手入れ ・障子貼り・犬の散歩・粗大ごみの回収
シルバー人材センター	71 件	・窓ふき・庭の草木の剪定・台所の換気扇掃除・草刈り ・不要品処分・プランターの片付け・障子の張り替え
株式会社御用聞き	8 件	・お風呂掃除・買い物・トイレのつまり対応・仏壇の移動 ・スマートフォンの操作・照明掃除
宮代町社会福祉協議会	24 件	・散歩・窓ふき・外窓拭き・買い物・室内の掃除 ・一緒にガーデニング
合計	130 件	

③地域交流サロン支援事業

計 15,230 円 (R6年度 20,000 円)

地域交流サロンの運営に係る個別の相談に応じるとともに、一芸ボランティアや出前講座の調整、レクレーショングッズや機材等の貸出し、会報作りにかかわる PC の操作方法等、サロン活動の支援を行いました。

またサロン連絡会を 2 回開催。うち 1 回は、町内の南圏域、北圏域に分けて開催し、それぞれのサロンの現状や課題を共有するとともに、より近い地区でのサロン同士の関係構築や情報交換会、備品紹介等を実施しました。

■サロン連絡会

実施日	参加団体等	内容
令和 7 年 6 月 9 日 (月)	17 団体 35 名	交流サロン現状や課題の共有、情報交換会等
令和 8 年 3 月 5 日 (木)	19 団体 40 名	午前は南圏域、午後は北圏域で開催

④ 生活支援体制整備事業 (町からの受託事業)

計 4,100,000 円 (R6年度 4,100,000 円)

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進するため、移送サービス講習会、地域支え合い講座や介護入門研修など各種事業に取り組みました。

■サロン連絡会での情報収集・情報発信及び生活支援に繋がる事業の PR

年 2 回サロン連絡会を開催し、参加者からサロンの状況、問題点等を共有し、サロンの現状把握を行いました。また、サロンの取組みを F a c e b o o k で発信し PR するとともに、縁じょい通信 (5 月・10 月・1 月) を作成し、縁じょいメンバー登録者に送付しました。

*令和 7 年度縁じょい通信発行数 述べ 1,343 枚 (前年比△20 名)

■縁じょい交流会の開催

令和 7 年度の縁じょい交流会では、藤棚の整備、すてっぷの花壇で花の植え替え・野菜作り、福祉カルタボッチャ、B B Q イベント等を実施しました。さまざまな活動を通し、皆さんがすてっぷ宮代を介して新たな出会いや繋がりができました。また、縁じょいメンバーで作った野菜を生活困窮者に差し上げて大変喜ばれました。B B Q イベントでは子ども達から高齢者まで参加してくださり多世代交流ができ、子ども達やその両親等今までに関わりが薄かった層にも縁じょいの活動を知っていただく機会にもなりました。

*年 6 回開催 (延べ参加者数約 70 名)



縁じょい交流会

■移送サービス運転者講習会

高齢者の増加に伴い、移送サービスを必要としている方が増えているが、移送サービスに従事する方が減っているため、埼玉県移送サービスネットワーク代表である笹沼氏をお招きし、令和7年6月22日（日）、7月6日（日）にすてっぷ宮代にて移送サービス運転者講習会を実施しました。

項 目	内 容
実施日等	令和7年6月22日（日）、7月6日（日）
講師	埼玉県移送サービスネットワーク 講師 笹沼和利 氏
実施内容	6月22日 講義（高齢者・障がい者の特性と対応安全運転の基礎知識と心構え） 7月6日 実技（福祉車両の取り扱い方法、運転実習・乗降補助体験）
参加者	16名

■地域支え合い講座の開催

令和7年12月9日（火）進修館2階ロビーにて、地域福祉の専門家である埼玉県立大学准教授の川田先生をお招きし、居場所づくりの必要性についてお話していただきました。

項 目	内 容
実施日等	令和7年12月9日（火）
講師	埼玉県立大学 准教授 川田虎男 氏
実施内容	居場所づくりの必要性について
参加者	44名

■介護入門研修の開催

身近な人の「もしも」に備えていただくために、介護入門研修を実施しました。この講座では、介護に関する基礎知識・基本技術の他、「どうすれば介護保険のサービスを利用できるのか」といった基本事項を中心に、事前に動画を作成して教材として用いました。

項 目	内 容
実施日	令和8年2月6日（金）
講師	宮代町健康介護課 宮代町南高齢者相談センター 宮代町社会福祉協議会ホームヘルパーステーション
実施内容	・介護保険の基礎知識 ・介護保険の要介護認定からサービス利用までの流れ（講義&動画） ・基本的な介護スキル（実技）
参加者	17名

■協議体への参加 計5回参加

協議体は、生活支援の体制を整備するためにつくられた、生活支援提供主体を中心に構成された団体です。協議体の構成メンバーの力を如何に引き出して、担い手育成、支え合いの精神を啓発するかを町の担当者と協議を行って実行しました。

⑤ 高齢者等訪問理美容助成事業 計 198,000 円（R6年度 104,500 円）

介護保険法における要介護状態区分が要介護1以上に認定された方で、心身の状態から理美容店へ出向くことが困難な方、又は身体障がい者手帳及び療育手帳並びに精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方で、自ら理美容店へ出向くことが困難な方に、1人1回につき3,000円（年3回）を限度として訪問による理美容サービスを受けた際の費用の一部を助成しました。

* 高齢者等訪問理美容助成者 29名 助成額 計 198,000 円

（２）障がい者福祉の推進

障がいへの理解を深め、障がいのある方が地域で安心して暮らせるよう、障がいのある方と地域を結ぶ交流事業を実施しました。

① 障がい者交流事業

「障がいのある方のはたらく場」「地域との交流の場」という目的に立ち返り、ぶどうの樹を拠点として地域と障がいのある方の交流機会の創出を図っています。

ぶどうの樹での喫茶業務を通じて、特別支援学校（宮代分校）からの職業体験授業（前後期併せて６名、全１２回）を受け入れ、町民ボランティアや大学実習生と一緒に活動し、来店いただいた地域の方と交流する機会を設けました。

② チーム対抗ユニバーサル福祉カルタボッチャ大会 計 13,100 円（R6年度 35,775 円）

年齢や障がいの有無を超えてスポーツを楽しみながら交流することを目的としたユニバーサルボッチャ大会を開催しました。

当日は、障がい福祉サービス事業所の利用者やさわやかクラブ連合会、身体障がい者福祉会、地域交流サロン等が参加し、白熱した戦いや応援を繰り広げるとともに、参加賞のアイスを食べながら和やかに交流しました。

■チーム対抗ユニバーサル福祉カルタボッチャ大会

実施日	参加者数	内容
８月７日（木）	６団体（８２名）	社協オリジナルルールの福祉カルタボッチャ大会を開催

③ スポーツフェスティバル

年齢、性別、障がいの有無に関係なく誰もが自由に参加できる、町主催の「町民スポーツフェスティバル 2025」に参加しました。

項 目	内 容
実施日等	令和 7 年 10 月 12 日（日） 宮代町総合運動公園
協力団体等	さわやかクラブ連合会、宮代町福祉課
社協実施内容	ふくしカルタボッチャ、輪投げ、バグギー
参加者	社協イベント 204 人 スポーツフェスティバル全体では延べ 3,504 人

④ 音訳 CD 配布事業 計 4,449 円（R6年度 3,686 円）

ボランティアセンター登録団体である「みやしろ音訳ボランティア」の協力を得て、町広報・社協宮代・ひまわりだより・議会だより等を音訳したものを CD 化したうえで、視覚障がい者等へ配付し、情報支援を図りました。また、「社協宮代」の音訳データをどなたでも聞いていただけるよう、Youtube へのアップも始めました。



（３）児童福祉の推進

子どもたちの孤立を防ぎ、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくりを進めるため、子ども食堂「ゆうやけひろば」の運営をはじめ、地域の様々な活動団体等が主体となって取り組む「新たなこどもたちの居場所づくり」を推進しました。

また、経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭等を支援するため、就学時ランドセル応援事業とともに、歳末生活応援事業を実施しました。

① 子ども食堂（ゆうやけひろば）事業

計 429,215 円（Ｒ６年度 377,585 円）

ゆうやけひろば実行委員会（ボランティア）とともに、様々な家庭の事情により、十分な食事を摂ることや、家族と食事することが難しい子ども・保護者等に対し、（株）新しい村生産者組合やアルファクラブ武蔵野（株）等の協力を得て、低価格での食事提供と居場所づくりを目的とした子ども食堂を、進修館の食堂にて開催しました。

項 目	内 容
開催日等	毎月２回（第２土曜日と第４木曜日の月２回 17：00～19：30） 合計 24 回
参加者	延べ計 1,632 名（大人 531 名、子ども 1,101 名）

② お弁当配達事業（町からの受託事業）

計 2,633,474 円（Ｒ６年度 2,645,097 円）

町からの委託を受け、見守りが必要な子育て世帯に対し、週一回（毎週火曜日）のお弁当配達を通じて子どもの見守りを実施しました。

＊対象世帯（※令和８年３月時点） 11 世帯 47 名 配達回数 52 回

③ 新たな子どもの居場所づくり事業

計 12,093 円（Ｒ６年度 51,946 円）

すてっぷ宮代に、子どもや保護者が気軽に来られる機会をつくるため、令和７年度もキッズスペースを維持し、夕方 16～17 時を「こどものじかん」として、空いている会議室・多目的室を子どもが自由に使えるスペースとして開放しました。

また、宮代町囲碁クラブの協力により毎週開催されている『こども囲碁教室』を継続開催するとともに、新しく子どもの居場所を作りたい団体や、既に活動している団体の相談に応じ、助成金の申請・報告手続きの補助や食材の提供等の支援を行いました。

■囲碁教室 すてっぷ宮代活動チーム（宮代町囲碁クラブ）によるこどもの居場所

実施日	参加者数	内容
毎週金曜日 午後４時～５時	毎回 10 名程度	すてっぷ宮代活動チーム登録団体囲碁クラブによるこども囲碁教室を開催。かしの木児童クラブの子どもたちの他、町内の子どもが自由参加。

■＼集まれこどもたち／宮代町こどもの居場所で遊ぼう ＊共催 宮代町 子育て支援課

実施日	参加者数	協力団体
11月1日（土）	約 300 名	町内でこどもの居場所づくりを行う 6 団体 ※辰新田・蓮谷町内会こども広場/道佛集会所元気クラブ/ゆうやけひろば(子ども食堂)/かしんだま文庫/宮代町囲碁クラブこども囲碁教室/ちびっこ鉄道クラブ宮代

④ 就学時ランドセル応援事業

計 100,000 円 (R6年度 20,000 円)

ひとり親世帯・両親ともおられない世帯のランドセル購入費用の一部(最大2万円)を助成しました。

＊就学時ランドセル応援事業利用者 5 世帯

⑤ 歳末生活応援事業

計 130,472 円 (R6年度 85,620 円)

経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭等に対し、少しでも温かい新年を過ごしていただくため、希望のあった世帯へ、ありがとう商品券・米 5 kg・キャラクター切り餅を配布しました。

＊ 歳末生活応援事業申込世帯 36 世帯



イベント「＼集まれこどもたち／宮代町こどもの居場所で遊ぼう」

4 ボランティア活動の推進（ボランティアセンターの運営）

（１）ボランティア活動の推進

①ボランティアセンターの運営

計 5,630 円（R6年度 27,418 円）

地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深め、ボランティアの育成、援助を行い、地域福祉の増進を図ることを目的に、ボランティアセンターを運営しました。

社協宮代でのボランティア特集ページや、HP・Facebook、イベント等で周知を図った他、登録ボランティア団体・個人ボランティアと、「ボランティアを依頼したい人（団体・施設）」、「ボランティア団体への加入を希望する方」などを繋げ、調整しました。

＊ボランティア調整 相談件数 64 件（2026 年 3 月 25 日時点）

■登録ボランティアの状況

種別	内容	団・個別	登録数
福祉 ボランティア	福祉を目的にしたボランティア または、慰問活動など福祉に関 わる活動が中心のボランティア	団体	16 団体
		個人	ぶどうの樹、宮代特別支援 学校等、各活動先で管理
一芸 ボランティア	施設やサロン等に訪問し、演奏 やマジックなどを披露するボラ ンティア	団体	27 団体
		個人	20 名

＊福祉ボランティア兼一芸ボランティアの団体や、複数団体加入の方もいるため、団体数・人数については、重複あり

■ボランティア保険加入取扱状況（ボランティア保険受付業務）

基本プラン 保険料 350 円		天災プラン 保険料 500 円		合計	
630 人	220,500 円	91 人	45,500 円	721 人	266,000 円

②ボランティア養成講座

計 37,499 円（R6年度 20,600 円）

ボランティア養成講座を実施し、ボランティアにふれる機会とするとともに、新たなボランティアの確保に努めました。

講座名	日程	申込人数
福祉教育サポートボランティア 養成講座	10 月 14 日（火）・15 日（水）	7 名
学校ボランティア講座	6 月 16 日（月）・9 月 16 日（火）	7 名

③ ボランティア体験プログラム事業

計 59,486 円 (R6年度 59,462 円)

夏休み期間に気軽にボランティアや福祉等の体験ができるよう、高齢・障がい・保育等の福祉分野だけでなく、ボランティア経験のない方も気軽に参加できるような、防災や多世代交流、イベントのお手伝いなど、多種多様な体験メニューを提供しました。

メニュー数	参加者 実人数	述べ参加者数
23	54 人	88 人

④ スマホ・パソコン何でも相談会

計 11,611 円 (R6年度 15,842 円)

日本工業大学と連携し、情報メディア工学科の学生が、すてっぷ宮代内で情報ボランティアとして相談に応じる「スマホ・パソコン何でも相談会」を実施しました。後期の3日間は、学生を分け、宮代町立図書館でも開催しました。

期間	ボランティア人数	相談件数
前期 5月～7月	102 名	480 件
後期 10月～12月	60 名	446 件

⑤ 地域応援学生ボランティア事業

町や地区・自治会からの依頼を受け、地域活動やイベント等の支援として、町内在住・在学の高校生・大学生を結びました。

■地域応援学生ボランティア

依頼件数	学生ボランティア LINE 登録者	活動者数
16 件	117 名	延べ 47 名

⑥ 災害ボランティアセンター運営事業

計 19,713 円 (R6年度 21,327 円)

災害時において、住民ニーズに添った支援をするためには、混乱時にも的確にボランティアを派遣するノウハウを蓄積することが必要なため、赤十字奉仕団や宮代町福祉課、宮代町くらし安全課と連携し、災害ボランティアセンター立上げ訓練を実施しました。

今回は、百間中学校の生徒や高校生、大学生等若い世代も参加し、被災地を想定した活動を行いました。また、災害に備えて、ハイゼックス炊飯袋で調理した炊き込みご飯の試食も行うなど、災害について考えてもらう機会を提供しました。

■災害ボランティアセンター開設・運営訓練

実施日	参加者数	内容
R8 年 2 月 21 日 (土)	60 名	ボランティアの受入れ、ボランティア要望の受付、ボランティア活動の調整、送り出し訓練、被災地訓練、ハイゼックス炊飯袋を使った調理等も実施。

5 相談支援・権利擁護

(1) 日常生活自立支援

住民の皆様の生活上の悩みや相談に応じるとともに、個人の尊厳と意見が尊重され、適切な福祉サービスが選択できるよう、あんしんサポートねっと事業により、一人ひとりの生活に寄り添った必要な支援を行いました。

① 心配ごと相談

毎月第2木曜日の午後2時から3時30分までを相談日として、住民の生活上の悩みごとや心配ごとなどのあらゆる相談に応じ、適切な助言指導を行いました。

＊相談日数12日 相談件数2件（電話相談含む）（R6年度3件）

② あんしんサポートねっと事業

計 1,514,750 円（R6年度 1,357,290 円）

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方に対し、生活支援員による福祉サービスの利用援助を行い、地域において自立した生活が送れるよう支援しました。

■あんしんサポートねっと利用者

対象者	前年度より 継 続	R7年度中 新 規	R7年度中 解 約	R7年度末現在 契約者数
認知症高齢者	4名	4名	2名	7名
知的障がい者	6名	0名	1名	5名
精神障がい者	2名	1名	1名	2名
合 計	12名	5名	4名	14名

■あんしんサポートねっと援助内容等

援助内容		生活支援員
金銭管理	14名	6名
通帳預り	13名	
書類預りサービス （銀行貸金庫で管理）	0名	

(2) 生活困窮者支援

経済的に厳しい生活困窮世帯を対象に、フードドライブを活用した食糧支援や福祉資金の貸付事業等を実施し、住民の皆様の自立した暮らしを支えました。

① 彩の国あんしんセーフティーねっと

社会福祉法人格を有する施設（みどりの森）及び社会貢献支援員（行田市の社会福祉法人隼人会まきば園）と社協が協働して実施する事業で、地域の生計困難者の身近な相談機関として、滞納している公共料金の支払や生活費等に対し10万円を上限に支援しました。

＊相談件数8件 申請件数5件 （令和6年度 相談件数9件 申請件数4件）

②生活困窮者自立支援事業

生活困窮者に対して、生活保護に至る前の支援を行うことにより、対象者の自立の促進を図る事業で、社協は、町とともに相談窓口であるアスポート相談支援センター埼玉東部へつなぎました。

＊相談件数 1 件 （令和 6 年度 相談件数 14 件）

また、福祉資金やあんしんセーフティーネット等の制度の対象にならない生活困窮者の方に、連合埼玉が運営しているネット 21 久喜というフードバンク、町内の金融機関、企業から提供を受けた食料や地元の方から寄付された食料を届けました。

＊給付件数 208 件 （令和 6 年度 給付 162 件）

③フードパントリー事業

計 6,500 円（R 6 年度 37,450 円）

生活困窮世帯等に対する支援として、食品食材等の無償提供を行いました。

また、ボランティア団体「ちあーず FD」の協力で年に 2 回、特例貸付借受人かつ現時点で償還が完了していない世帯へ向けて食品配布会を実施しました。

■フードパントリー

項 目	内 容
食品寄付 BOX の設置	町内 8 カ所 （宮代町福祉課 子育て支援課 町内郵便局 3 か所 新しい村 無印良品 社会福祉協議会） ※新しい村は子ども食堂の前日のみ。
食品寄付の受付	総重量 約 1550.6 kg
フードパントリー(食品の配布)	特例貸付借受人へのパントリー 延べ 41 世帯 随時相談に応じた提供 延べ 191 世帯



食品寄付 BOX 設置場所

（３）福祉資金貸付

生活費に困窮している低所得者世帯に対し、応急的な資金の貸付と必要な助言指導を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進をしました。

① 宮代町福祉資金の貸付

計 951,700 円 (R6年度 564,080 円)

福祉資金貸付規程に基づき、低所得者世帯に対し、生活の安定と自立の助長を図るため、5万円を限度として、応急的な資金の貸付けを行いました。

■福祉資金

項 目	内 容
貸付件数	36 件／ 951,700 円 (R6年度 23 件／ 564,080 円)
償還金	845,000 円 (R6 年 684,000 円)
欠損処理	743,000 円 (R6 年 0 円)
未償還金（累計）	3,490,963 円 (R8.3.31 現在)

② 生活福祉資金（県社協）の活用促進

計 7,279,000 円 (R6年度 6,457,000 円)

埼玉県社会福祉協議会の生活福祉資金貸付にかかる教育支援資金の貸付申請をしました。実際の貸付は、埼玉県社会福祉協議会で行いました。

■生活福祉資金

項 目	内 容
緊急小口資金	0 件 0 円 (R6年度 0 件)
教育支援資金	1 件 420,000 円 (R6年度 2 件)
要保護不動産担保型生活資金	0 件 0 円 (R6年度 0 件)

■法外援助

行路者旅費貸付及び支給規程に基づき、旅費（交通費）に苦慮している方に対し、貸付または支給しました。

＊貸付件数 2 件 600 円 (R6年度 5 件 1,500 円)

6 在宅福祉サービス

福祉車両や各種福祉機器を無料で貸出すことにより、歩行が困難である高齢者及び身体障がい者、病気療養中の方などの日常生活の負担を軽減し、高齢者等の社会参加の促進に努めました。

また、高齢者や障がいのある方等に対し、各福祉関係法や制度では担えない家事支援及び簡易的な介護等のサービス等を提供することにより、高齢者等の自立促進及び生活の質の確保を図りました。

① 福祉機器貸出事業

計 4,510 円 (R6 年度 990 円)

在宅の高齢者及び身体に障がいがある方等の日常生活の負担を軽減するため、福祉機器・福祉用具の貸出しを行い、在宅における福祉の増進を図りました。

■福祉機器貸出の状況

福祉機器	保有数	貸出数量	R6
車いす	36 台	64 台	131 台
シャワー椅子	11 台	11 台	10 台
歩行器・シルバーカー	19 台	10 台	29 台
松葉杖・四点杖・一点杖・ロフト トランドクラッチ	43 本	13 本	33 本

② 福祉車両貸出事業

計 648,401 円 (R6 年度 692,685 円)

歩行が困難な高齢者及び障がいのある方に対し、車いすに座ったまま走行できるリフト付車両を貸し出すことにより、歩行の困難な方々の行動範囲を広げ、積極的に社会参加する機会を確保しました。

■福祉車両貸出の状況

	R7 年度		R6 年度	
	延べ件数	延べ日数	延べ件数	延べ日数
タント	97 件	163 件	103 件	198 日
アトレー2号	77 件	166 件	75 件	190 日
計	171 件	329 件	178 件	388 日

③ まごころ支援サポート事業

高齢者等に対し、各福祉関係法に基づかない通院同行や外出介助、生活援助を行うことにより、利用者が安心して在宅で生活を営むことができるよう努めました。

■まごころサポートの状況

項目	R7 年度	R6 年度	比較
提供件数	延べ 103 件	延べ 120 件	-17 件
提供時間数	103 時間	130 時間	-27 時間
利用料収入額	156,300 円	182,100 円	-25,800 円

7 介護・障がい福祉サービス

(1) 居宅介護事業所

計 18,073,318 円 (R6年度 18,198,225 円)

①介護予防支援事業

要支援状態にある高齢者等について、町地域包括支援センターから委託を受け、要介護状態になることを予防するための心身の状態の維持や改善を考慮した中で、ケアマネジャーが利用者に合ったケアプランを作成しました。

■介護予防支援

項 目	R 7 年度	R6 年度	比較
介護予防ケアプラン作成件数	延べ 175 件	延べ 218 件	-43 件
介護予防ケアプラン作成報酬額	813,145 円	990,640 円	-177,495 円

②居宅介護支援事業

要介護状態にある高齢者等に対し、ケアマネジャーが利用者の要望に添いながら、一人ひとりの心身の状況にあったケアプランを作成しました。利用者がこの町で安心して在宅で暮らしていただくために、質の高いケアマネジメントを行うことに努めました。

■居宅介護支援

項 目	R 7 年度	R6 年度	比較
ケアプラン作成件数	延べ 1,286 件	延べ 1,198 件	+88 件
ケアプラン作成報酬額	20,349,784	19,505,761 円	+844,023 円

要介護度別 (件)				
要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
469	447	149	119	120

(2) 訪問介護事業所

計 34,782,145 円 (R6年度 33,025,332 円)

①介護予防日常生活支援総合事業

要支援状態にある高齢者等を対象に、要介護状態になることを予防し自立した日常生活を支援するため、ヘルプサービスを行いました。

■介護予防日常生活支援

項目	介護予防日常生活支援総合事業		比較
年 度	R 7 年度	R6 年度	
サービス提供件数	延べ 295 件	延べ 244 件	+51 件

②訪問介護事業

要介護状態にある高齢者等に対し、その人がその人らしく在宅でいつまでも暮らせるよう、心身の状況に合わせた身体介護、生活援助のホームヘルプサービスを行いました。

■訪問介護

項目	訪問介護		比較
年 度	R 7 年度	R 6 年度	
サービス提供件数	延べ 614 件	延べ 580 件	+ 34 件

③ ヘルパーの資質向上研修

実施月日	実施内容
R7・4・10（木）	令和7年度の年間計画について・研修：緊急時対応 ・検討会議
R7・5・8（木）	講義：接遇について・検討会議・実技研修「コミュニケーション」・事務連絡
R7・6・12（木）	講義：「感染症対策・食中毒」・「BCP 研修」・検討会議・事務連絡
R7・7・14（月）	実技研修：車椅子操作・検討会議・事務連絡
R7・8・14（木）	実技研修：火の使わない調理・検討会議・事務連絡
R7・9・11（木）	全体研修：「倫理・法令順守・プライバシー保護・ハラスメント」・事務連絡
R7・10・9（木）	実技研修：「入浴介助時の事故防止」・検討会議・事務連絡
R7・11・13（木）	全体研修「感染症対策」・検討会議・事務連絡
R7・12・11（木）	調理研修「高齢者向けの調理法」・検討会議・事務連絡
R8・1・8（木）	実技研修「ベット上の移動介助・おむつ交換・衣類の脱着」・事務連絡
R8・2・12（木）	研修：「救命救急研修」講師日本赤十字社・検討会議・事務連絡
R8・3・12（木）	研修「認知症に関する研修」・検討会議・事務連絡

（３）地域包括支援センター事業

計 28,622,022 円（R6 年度 1,612,979 円）

令和 7 年 4 月より、「宮代町南高齢者相談センター」を開設しました。宮代町地域包括支援センター運営指針に基づいた事業計画を作成し、町の南圏域を中心に各事業に取り組んでいます。

① 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

要支援 1、2 と認定された方、および事業対象者の認定を受けた方に対して、介護保険における介護予防サービス、また町の総合事業（訪問型サービス、通所型サービス等）が適切に利用できるよう、情報提供やケアプラン作成、地域の居宅介護支援事業所と連携を図りました。

		R7 年度	
ケアプラン作成	総実人数	251 人	
	総延べ人数	2,187 人	
うち直営分	実人数	120 人	
	延べ人数	1,067 人	
うち委託分	実人数	131 人	
	延べ人数	1,120 人	

② 総合相談支援業務

地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、適切な保健・医療・福祉サービスや各関係機関、また制度の利用に繋げるために相談を受けています。地域の実態把握にも努めました。

■相談対応及び専門的・継続的な相談支援

相談内容	R7 年度	
介護保険・介護サービスに関する相談	3,753 件	
福祉サービスに関する相談	237 件	
認知症に関する相談	101 件	
権利擁護に関する相談	13 件	
その他の相談	71 件	
見守り等	231 件	
合計	4,406 件	

■地区民生委員との地域訪問

	R7 年度	
訪問対象者（内会えた人数）	471 人（345 人）	

③ 介護予防教室（すてっぷあっぷ体操教室）の開催

地域の方々が介護予防に興味、関心を持っていただけるよう、運動、栄養、口腔等に係る介護予防教室を定期的に開催しました。

	R7 年度	
開催回数	16 回	
延べ参加者	129 人	

④ 認知症施策推進業務

認知症の方やそのご家族が安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう、地域の居場所作り、また地域で暮らしを支えるネットワーク作りに努めました。

■ 認知症カフェ（認知症について考えるカフェ）の開催

	R7 年度	
開催回数	11 回	
延べ参加者	99 人	

■ 認知症サポーター養成講座の開催

	R7 年度	
開催回数	2 回	
受講者数	25 人	

（４）障がい福祉サービス事業

障害者総合支援法に基づき、「宮代ひまわりの家」「相談支援事業所ひまわり」を運営し、障がいのある方やその家族が円滑に障がい福祉サービスを利用することができるよう支援しました。「福祉の店喫茶ぶどうの樹」の運営と併せ、障がいのある方が安心して地域で生活できるよう努めました。

① 宮代ひまわりの家

計 82,335,905 円 （R6 年度 93,989,354 円）

障害者総合支援法に基づき、障がい福祉サービス事業所として生活介護、就労継続支援 B 型事業を提供しています。

令和 7 年度は、1 名の新規利用者、3 名の退所者（施設及び GH 入所）があり、計 47 名の登録利用者が在籍、活動しました。

また、利用者や保護者の高齢化に伴い、将来の生活や緊急時に備えるため他事業所での短期入所や体験利用が活用できるよう相談支援事業所ひまわりと連携を図っています。取り組みを通じて、家族状況によって在宅生活が困難となった方についてスムーズに施設や GH へ生活の場を移すことができました。

■利用者の状況

項目	R 7 年度	R 6 年度	比較
延べ利用人数	9,043 人	9,242 人	－199 人

■班活動

作業班別	作業の内容	利用者 (人)
資 源 班	大口の資源回収及び業者への搬入、ウォーキング	4
回 収 班	町内を対象にダンボール等を回収、ウォーキング	4
ひまわり班	創作活動、牛乳パック回収・ウォーキングで体力維持等。 身辺自立/生活面の訓練	10
清 掃 班	保健センター、郷土資料館内の清掃業務、館内の特別清掃	6
内 職 班	内職（販促景品の袋詰め）、所内清掃、創作活動等、ウォーキング	12
洗 濯 班	六花内の老健入所者及び六花職員の衣類の洗濯	6
自動販売機班	自販機 14 台の管理等	5
(ぶどうの樹)	福祉の店喫茶ぶどうの樹での実習	※（5）
合 計		47 人 ※（ ）は再掲

■実施した年間行事

利用者主体の自治会で色々な行事のこと、日帰り研修の行き先等、利用者希望に沿えるようみんなで決めて実行しました。また、地域イベントへの参加を行い、他施設との交流を深めました。

項 目	内 容
主な行事	○はじめの会（R7.4.1）、納めの会（R7.12.26） それぞれ年度始めや年末の節目に、自治会長・副会長・役員の挨拶等もあり、利用者の主体的な形で、利用者、スタッフで開催。 ○日帰り研修（年1回） 活動班ごとに、「東武動物公園や茨城自然博物館」等への社会見学。 ○ワクワクランチ…フードコートなど外出先での外食体験の再開（月1回） ○健康相談及び健康観察（月1回） ○利用者自治会「わんぴーすの会」（R7.5.22 6.26 9.25 11.27） 役員選挙で選ばれた利用者主体で運営 ・ハロウィンパーティー（R7.10.30） 仮装大会・ビンゴ大会を開催 ・20才を祝う会（R8.1.29）花束を贈呈し全員でお祝い。記念撮影。

■給付費及び訓練等給付費収入

項目	R7年度収入額	R7年度利用者数	R6年度収入額	R6年度利用者数	比 較
介護給付費	66,458,434 円	生活介護 28 名	64,480,697 円	生活介護 23 名	1,977,737 円
訓練等給付費	25,136,352 円	就労継続支援 B 型 19 名	32,873,837 円	就労継続支援 B 型 24 名	－7,737,485 円
計	91,594,786 円	計 47 名	97,354,534 円	計 47 名	－5,759,748 円

■就労支援事業収入

計 10,493,602 円（R6年度 12,929,678 円）

就労継続支援の一環として、宮代町保健センター及び宮代町郷土資料館の清掃業務に加えて、福祉交流館すてっぷ宮代の清掃業務も開始しました。また、公設宮代福祉医療センター六花の洗濯業務も引き続き行っています。

その他、内職活動（箸入れ作業、販促の景品の袋詰め等）、自動販売機管理による飲料販売、町内の資源物回収など、利用者工賃の確保に向けた活動を継続しました。

② 福祉の店喫茶ぶどうの樹

計 5,192,988 円（R6年度 5,675,389 円）

町民まつりやひな祭りイベントへの参加など、集客や営業活性化に努めました。

また、運営目的に沿った障がい者交流の拠点として、障がいのある方の職場実習、地域ボランティアの受け入れを行うとともに、指定寄付により応援いただいた寄付金を活用し、エプロン等をリニューアルしました。

(5) 相談支援事業所ひまわり

計 13,747,072 円 (R6 年度 12,617,084 円)

近年、「障がい児」に関わる依頼が増えており、利用者や家族の要望に添いながら、一人ひとりの心身の状況にあった支援提案、計画を作成し、利用者が安心して暮らしていけるよう丁寧なケアマネジメントを行うことを心掛けました。

地域連携として「ふれんだむ」「庄内」「ROAD」「ぷらすわん」と事業所協定を結び、機能強化型支援Ⅰにより運営するとともに、毎月埼葛北地区自立支援協議会の相談支援事業所連絡会に参加し、多角的な視点で支援提供しました。

■相談支援事業所ひまわりの状況

項 目	R 7 年度	R 6 年度	比較
サービス等利用計画、モニタリング作成件数	延べ 628 件	延べ 647 件	-19 件
計画相談支援給付費収入	14,404,715 円	14,819,203 円	-414,488 円

8 その他

(1) 共同募金会宮代支会

①赤い羽根共同募金

募金活動への寄付をとおして、福祉に参加するという意義を啓発するとともに、資金の必要性を周知し福祉コミュニティの構築を促進することを目的に、埼玉県共同募金会の実施要項に基づいた赤い羽根共同募金を実施しました。

	R 7 年度	R 6 年度	
戸別募金	1,750,100 円	1,792,600 円	町内各自治会より
職域募金	134,918 円	125,630 円	宮代町民生委員・児童委員協議会、福祉関係職員、宮代町職員、社協職員より
街頭募金	66,504 円	81,740 円	町内の 3 駅で街頭募金を実施（利息分を含む）
個人募金	6,715 円	1,744 円	町内個人等より
法人募金	0 円	0 円	法人・企業より
学校募金	34,923 円	48,870 円	町内小中学校、高校より
計	1,999,070 円	2,050,584 円	

②地域歳末たすけあい募金

新たな年を迎える時期に、援助や支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、町内事業所等へ協力を依頼し、歳末たすけあい募金を実施しました。

＊募金総額 591,200 円 (R 6 年度 643,391 円)



（２）日本赤十字宮代町分区

①日本赤十字社会員募集

毎年５月に町内全域を対象に会員募集を行いました。この会費は、災害救護対策等を実施するための活動費であり、日赤の様々な活動を支える大切な資金となっています。

＊会費総額 1,369,160 円（R6年度1,334,700 円）

②日赤災害救援物資及び災害見舞金の交付

災害救助法の適用に至らない災害（火災等）を受けた被災者に対する支援がありますが、令和７年度の実績はありませんでした。

＊火災見舞金 0 件（R6年度0 件）

＊災害救援物資配布世帯 0 件（R6年度0 件）

③宮代町赤十字奉仕団への支援

地域奉仕団として組織されている「宮代町赤十字奉仕団」の事務局として、奉仕団の活動を支援しました。

令和７年度は、奉仕団とともに、下記のとおりさまざまな赤十字の普及活動を実施しました。

■宮代町赤十字奉仕団の活動

活動内容	回数	奉仕団員
献血周知活動	3 回（R6 年 3 回）	21 名
夏のボランティア体験（災害時の調理）	1 回（R6 年 1 回）	8 名
災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	1 回（R6 年 1 回）	17 名

④自主防災会等への支援

地域自主防災会、団体等に対し、日赤埼玉県支部の協力のもと、防災への意識を高めることを目的とした救急法やハイゼックス講習等を実施しました。

活動内容	回数	奉仕団員数	参加者
救急法講習会	1 回	0 名	14 名
災害時の調理法の紹介	1 回	5 名	約 80 名
ハイゼックス訓練講座	1 回	5 名	20 名